

2008年公民科倫理 前期中間考査(3年1,2,3,4,5組&理系) 正解と解説

大問	問題番号	正解	正答率	配点	大問	問題番号	正解	正答率	配点
1	1	3	86	2	3	26	1	61	2
	2	2	89	2		27	1	17	2
	3	1	42	2		28	2	54	2
	4	3	77	2		29	2	66	2
	5	2	97	2		30	4	43	2
	6	1	60	2		31	4	58	2
	7	6	79	2		32	3	81	2
	8	2	87	2		33	3	83	2
	9	4	44	2		34	2	72	2
	10	2	48	2		35	1	62	2
2	11	1	58	2	4	36	4	82	2
	12	3	79	2		37	3	50	2
	13	2	51	2		38	4	27	2
	14	4	27	2		39	2	84	2
	15	1	19	2		40	3	23	2
	16	1	31	2		41	3	64	2
	17	4	45	2		42	5	74	2
	18	4	29	2		43	1	54	2
	19	1	89	2		44	4	51	2
	20	2	52	2		45	4	37	2
3	21	1	79	2	5	46	3	31	2
	22	1	28	2		47	3	59	2
	23	2	34	2		48	1	14	2
	24	3	18	2		49	4	15	2
	25	1	61	2		50	2	25	2

2008年前期中間 倫理 得点分布

	点数	頻度	累積
平均			
54.4点	95~100	1	1
	90~94	0	1
最高点	85~89	1	2
98点	80~84	5	7
	75~79	8	15
標準偏差	70~74	12	27
12.65	65~69	13	40
	60~64	31	71
	55~59	18	89
	50~54	37	126
	45~49	28	154
	40~44	27	181
	35~39	8	189
	30~34	11	200
	0~29	2	202

2007年前期中間 倫理 得点分布

	点数	頻度	累積
平均			
52.2点	95~100	0	0
	90~94	1	1
最高点	85~89	3	4
94点	80~84	4	8
	75~79	5	13
標準偏差	70~74	5	18
14.15	65~69	15	33
	60~64	24	57
	55~59	11	68
	50~54	31	99
	45~49	14	113
	40~44	24	137
	35~39	21	158
	30~34	13	171
	0~29	3	174

## 解 説

### 第 1 問

[1] 正解 3 86%

この問題の選択肢の中に入れていませんが、ハイカルチャーというと、貴族やブルジョア階級の享受するようなハイブrouな文化という意味合いになります。メインカルチャーというと、「大衆文化のメインカルチャー化」という表現もあるように、文字通り中心的な支配的な文化という意味合いになります。メインカルチャーに対する若者文化全般をユースカルチャー。そこに反抗的要素が加わるとカウンターカルチャーになります。若者だろうとなかろうと、メインカルチャーの傍流を行くのがサブカルチャー。いわゆる「オタク文化」はサブカルチャーに含まれます。私の高校生くらいの頃は、「ツッパリ」とか「竹下族」とかが流行っていましたが、その辺がカウンターカルチャーでしようかねえ？ 夜露死苦！

[2] 正解 2 89%

最初のうちは易しい問題が続きます。コマーシャルイズムといえば、「商業主義」なわけですから、何よりも売り上げ最優先。場合によっては、流行の最先端は消費の最先端にもなってしまうわけです。ということで、選択肢の中で個性を磨いているつもりが、人気アイテムの購入に翻弄されているが正解ですね。私もちょいワル親父のジェローラモさんの人気アイテムでも買おうかな？

[3] 正解 1 42%

間違いを選ぶ問題の場合、明らかに違っているものを見つけると見つけることが必要です。この問題の場合は、『サモアの思春期』の作者はルース・ベネディクトではなく、マーガレット・ミードです。いずれもアメリカの女性文化人類学者ですが、二人は恋愛関係にあったということも知られています。ルース・ベネディクトといえば、日本文化論『菊と刀』でよく知られている人です。センター利用の人は用語集でチェックしておきましょう。のアリエスの『子供の誕生』は少しまぎらわしい表現にしていますが、「学校教育」という概念が 17 世紀に始まり、それとともに子供時代という概念や家族意識も成立してくることを示しています。のレヴィンについては、【マージナルマン = 青年】ではないことをしっかり押さえておきましょう。青年ももちろんマージナルマンに含まれますが、もともとは選択肢にあるとおり、移民など、ふたつの集団に所属して不安定になる人々を指します。特定の集団に帰属しない人をもマージナルマンと呼ぶ場合もあります。

[4] 正解 3 77%

『小さきものへ』といえば有島武郎が母を失った自分の子供たちに向けて書いた作品ですね。は資料集 17 ページに掲載されているエリクソンの『自我同一性』の一節

です。もちろん が正解です。ルソーの『エミール』のなかで「第二の誕生」が語られる部分です。はフランクルの言葉です。

[5] 正解 2 97%

これは易しい問題でした。精神医学の基礎概念「適応」という用語を適切に選べるかを問う問題です。

[6] 正解 1 60%

が正解です。を選ばなかった人の中には「無意識が意識化できるのかしら？」と疑問に思った人もいるかもしれませんが、精神分析学の基本が無意識を意識化することによって治療を行おうとする心理療法ですので、この選択肢には間違いはありません。は「超自我」が「イド・エス」だったら正しい選択肢になります。はエディプスコンプレックスを持たないことが神経症の原因となるのではなく、これを克服できなかった場合に神経症の原因となるというのが正解です。は単純にエロスとタナトスの説明が逆になっています。

[7] 正解 6 79%

[8] 正解 2 87%

昇華とは性的衝動を知的活動や芸術的活動などの社会的に価値あるものに置き換えることでした。選択肢の中では が適当ですね。みなさんも是非合格を勝ち取っていただきたいものです。また、合理化とは行動の正当化をあらわします。イソップ物語の「すっぱいぶどう」のお話が一番近い選択肢が です。その他、は投射、は反動形成、は同一視、が抑圧になります。

[9] 正解 4 44%

この問題は一見するとユングに関する知識を問う問題に見えますが、じつはアドラーに関する知識を問う問題でもあります。「適当でないもの」を選ぶ際にはあきらかに違うものを探すべきで、微妙に違っていそうなものを選んではいけません。を 27%の人が選択してしまいましたが、確かに意識と無意識の補償作用については授業でも触れていませんし、資料集にも書かれていません。しかし、ここでは、「劣等感コンプレックスとその補償」、「権力への意志」というキーワードからこれがアドラーの思想であることを判断する必要があります。

[10] 正解 2 48%

この問題が 48%の正答率では困ります。29%が を選んでいましたが、気質と体型の関連性を論じたのはデヴィッド・リースマンではなく、クレッチマーです。の欲求階層説は誰でしょうか？ マズローです。では の「自由からの逃走」は？ そう、フロムでした。倫理受験を考えている人はハズレ選択肢もきちんと理解できている必要があります。

### 第 2 問

[11] 正解 1 58%

自然哲学生誕の地、小アジアのミレトスを問う問題です。以外は小アジアの都市は一つもありません。のシラク

サはシチリア島のギリシア植民都市で、プラトンにもゆかりのある都市です。シチリア島はご存じですか？ マフィアやエトナ山で有名なイタリア半島のつま先部分の先にある大きな島です。のオリンピアはギリシア本土にあります。オリンピアの祭典で行われた競技がオリンピックの起源になっているのは有名ですし、北京オリンピックの聖火ももちろんオリンピアの神殿で太陽光を集めて採火されました。のエレアは南イタリアにあったギリシア植民都市です。パルメニデスやゼノンがエレアに住み、エレア学派と呼ばれました。

[12] 正解 3 79%

自然哲学の基本問題です。この問題を間違えた人の平均点は46.3点でした。資料集の32ページ左下の表などを確認して、それぞれの自然哲学者がアルケーを何であると述べたのかという基本中の基本を整理しておく必要があります。空気はアナクシメネス。無限定なものはアナクシマンドロス。火がヘラクレイトス。有るものはパルメニデスです。質問している内容は、「ヘラクレイトスは万物の根源は何であるといいましたか？」という問いなのですが、リード文の中で少しひねった出題にしています。倫理受験を考えている人はこの種の問題を落としてはいけません。

[13] 正解 2 51%

世界史よりも倫理の方が文化史的な知識としては深いものが必要とされます。それぞれ作者と作品名をあげてこうなります。ヘシオドス『労働と日々』、ホメロス『イリアス』、ソフォクレス『オイディプス王』、ヘシオドス『神統記』。作者と作品名だけでなく、その内容についてもある程度のイメージを押さえておきましょう。

[14] 正解 4 27%

少し難しめの問題です。なぜ、世界で最初の哲学者がタレスであるとされているのでしょうか？ 授業プリントのタレスの項目を見てみましょう。そこには「万物の根源は水である」「哲学(愛知)の祖(いずれもアリストテレス『形而上学』による)」「万物は神々に満ちている」七賢人の筆頭」と書かれていたはずですが、タレスが最初の哲学者であるという証言は、アリストテレスによるものなのです。のプルタルコス『英雄伝』で有名なローマの伝記作家。のディオゲネス・ラエルティオスは『ギリシア哲学者列伝』を書いた哲學家家です。

[15] 正解 1 19%

この問題で一番誤答率が高かったのが でした(32%)。この部分は授業の中でもかなり強調したところですので、おそらく を選んだ人は「適当でないもの」を選ばずに「最も適当なもの」を選んでしまったのではないのでしょうか。センター試験本番でも起こしやすいミスなのですが、「適当でないもの」を見逃さないことが大切です。適当でないものとしての正解は なのですが、「幾何学に王道なし」という言葉はユークリッド(エウクレイデス)の言葉です。そもそも『原論』というユークリッド幾何学の古典はピュ

タゴラスの頃にはまだ成立していません。また、 に関しても授業プリントの11ページ、「プラトン哲学 近代自然科学へ影響与えた」という記述を読んでいれば、正しいということがわかったはずですが。

[16] 正解 1 31%

センター過去問の良問です。この選択肢は と で迷うところですが、テオリアとは、「原理を直感的に把握する理性の働き」か「厳密な論証・推論としての理性の働き」かで悩むところなのですが、理性の働きからさかのぼって考えると「厳密な論証・推論」が正しいように思えるのですが、本来のテオリア(観想)の意味を考えると、真理を「眺める」ことによって探究するという姿から、「原理を直感的に把握する」という正解を導くことができます。表面的にはなく、深く学んだ人が正解できるという意味で良問だと思われま。 を選んだ人が46%いましたが、「テオリア」側からではなく「理性」側から考えた結果であると思われま。

[17] 正解 4 45%

資料集33ページの3ピュタゴラスを参考に作成した問題です。参照してみてください。現代の我々の感覚からすると、の「勝利を目指して競技をしに来る人」が正解のように思えますが、この生き方は、名誉を求める人の生き方であるとして最善とはされま。最善の生き方は、自然を観照(テオレイン=観想)する哲学者の生き方です。したがって の「見物に来る人」が正解になります。

[18] 正解 4 29%

この問題も、正解の選択肢に未習の紛らわしい要素が含まれていたので多少難問となったようです。ただし、きちんと勉強していれば、他の選択肢があきらかに哲学者名を特定できますので、消去法で解くことができます。は21%の誤答率。「飛んでいる矢は止まっている」というパラドックスで「アキレウスは亀を追い越すことができない」とともに、エレアのゼノンの思想です。は27%の誤答率。アトム(原子)が万物の根源だというわけですから、デモクリトスです。は22%の誤答率。水、空気、土、火の4元素説といえばエンペドクレスですね。ということで、 が正解となるのですが、「完結した丸い球」という表現が聞き慣れずに正解から外してしまったかもしれま。パルメニデスの言葉とされる断片の中には「有るもの」について「どのほうからしてもまるい球のかたまりに似ており」という表現があります。

[19] 正解 1 89%

センター試験の過去問ですが、この問題はよくできていました。初見の文章を読んで、その思想のエッセンスを読み取る力が要求されています。この手の問題やリード文の趣旨を問う問題は必ず毎年出題されますので、倫理の学習をとおして読解力を養いましょう。今回の試験でも [22] [25] あたりは読解力を意識した作問です。この問題については、弱肉強食の強者による弱者の支配を肯定するカリクレスの立場にあった選択肢を選ぶものです。この考え

たかは平等主義を批判し競争原理を肯定するという意味で、が正解になります。カリクレスの立場からすると、のように強者がたっぴりと報酬をもらうのは真の正義です。のように優劣の客観性は問題にならず、ソフィスト的立場からすると弁論術に優れた者が強者だということになります。は平等主義的であるという点においてカリクレス的ではありません。

[20] 正解 2 52%

アレテーの日本語としての訳が「徳」であり「卓越性」です。したがって、「卓越性」はソフィスト限定ではありませんので不正解。の「知恵」はソクラテスがそれがアレテーに他ならないといったものです。浄化(カタルシス)は選んだ人が一人もいませんでした。ということで、徳の教師ソフィストたちがお金をいただいて若者達に教えようとした人間のアレテーは「弁論術」が正解です。

### 第3問

[21] 正解 1 79%

残念ながら約20%の生徒が不正解でした。「ソクラテス以上の知者がいない」との神託がくだされたのは、当時世界の中心と言われたデルフォイでした。さすがにポセイドン神殿のあるスニオン岬を選んだ人は1%でしたが、のアテナイを選んだ人は11%いました。アクロポリスとはポリスの中核にある神殿の丘のことです。アテネのアクロポリスが最も有名ですが、固有名詞としての地名ではなく各地のポリスにあったものです。

[22] 正解 1 28%

リード文の読解力とソクラテスの思想についてのしっかりとした理解を問う問題です。この穴埋めは要約すると、次の文になります。「ソクラテスより知あるものはいない」という神託の意味は、「知らない」ことに対して「知らない」と思っているという点で、ソクラテスはそれを自覚していない人々よりも「人間的な知」において優れているかもしれない。しかしそれは(?)に比べたら無に過ぎない。しっかり読んでいただければ「人間的な知」とは「無知の知」のことを指しているのがわかると思います。したがって、(62%の誤答率)はここには入りません。用語の表面的な意味しか理解していないと、この問題を誤解してしまうことになります。ソクラテスの神託解釈は、「神の真の知」に人間は至ることができなかつと、人々や自分自身のドクサ(思い込み)を取り除きながら近づこうと努力し続けること、それが神がソクラテスに与えた使命なのだということでした。ということで正解はです。センター試験でも、穴埋め問題は単なる用語的な知識を問う問題ばかりではありませんぞ。ご注意なされよ!

[23] 正解 2 34%

このリード文は慶応大学の准教授、納富信留『哲学者の誕生 ソクラテスをめぐる人々』(ちくま新書)を引用して作成しました。この本は新書なのですが、本格的なプラトン/ソクラテスの研究を背景にしたすばらしい本で

す。これを読むと、目から鱗がパラパラと落ちてきます。お勧めです。ところで、この穴埋めもこのリード文全体の核心となる部分です。『ソクラテスの弁明』というプラトンの著作によって、私たちはソクラテスが起訴され処刑された裁判の様子を知ることができるのですが、そこで語られるソクラテスの弁明は「私は真実を語るがゆえに人々に憎まれたのだ」というものです。そして、その証言が真実であることは、やはり法廷でもソクラテスは自分の弁明のために憎まれて、死刑判決を受けてしまったという点に示されています。なかなかこの論法が「無知の自覚」同様に一種の循環を形成していて面白いのですよねえ。このような一種の循環的なリード文の主張を読み取る読解力と、二重カギ括弧付きの『弁明』が『ソクラテスの弁明』というプラトンの著作をあらわしているという発想が正解をみちびく鍵でしたね。

[24] 正解 3 18%

この問題もソクラテスの思想の深い理解を問う問題です。ソクラテスがなぜ人々の無知を暴露するのかという問題ですが、かなり正答率が低くなりました。24%がの「ノモス(法・慣習)の相対性をあきらかにするため」を選んでいましたが、これは一般的にはソフィストの主張ですので、問題外です。55%がの「ピュシス(自然)の絶対性をあきらかにするため」を選んでしまいました。プリントを表面的に読んでみると、ソフィストがノモスで、ソクラテスがピュシスと誤解してしまい、このような選択をしてしまいます。ソクラテスの主張はあくまでも、真善美などの価値がピュシスに由来するということであって、ピュシスが絶対的だということではありません。正解はの「善き生の吟味へと魂の目を向けさせるため」です。これはソクラテスが強調する「魂の世話」のことです。「人々の生き方を挑発する」という表現に引っかかってしまった人もいかもしれませんが、挑発されたからこそ人々はプライドを傷つけられてソクラテスを憎むわけです。下線部分を読むとその辺もわかると思います。

[25] 正解 1 61%

この問題は論理的な読解力と思考力を問う問題です。倫理の試験(当然センター試験も含む)で大切なのは**必ずリード文を読む**ということです。模擬試験ではセンター試験までの問題の作り込みがなされない場合が多いので、リード文を読まなくても解ける場合が少なくありません。しかし、センター試験はリード文を丁寧に読み込まないと解けない問題が大問ごとに必ずあります。さらに、リード文の中に選択肢を選ぶヒントが隠されていることが少なからずあります。ということで、リード文を丁寧に読めば、2段落目に「人々の無知を暴くことによって人々に憎まれた」ということが真実であるというソクラテスの主張を読み取ることができます。3段落目ではその「真実」が陪審員をも怒らせて死刑の評決をくだされたことが書かれていますし、4段落目では「真実を語ることで人々に憎まれる」という真実が、ソクラテスが陪審員にも憎まれて死刑

判決を受けることによって、間違いなく真実であることが明らかにされます。したがって、**α**が正解となります。どうでしょうか？ 論説文、評論文の読解が苦手な人は是非倫理の勉強をしてください。倫理の学習は論理的な読解力や思考力を身につけます。

[26] 正解 1 61%

センター過去問の良問です。具体的な言葉の中から無知の自覚の姿を選びます。**α**が正解ですが、自分は知っていると感じていたことがじつは知らなかったということをよくあらわしている選択肢だと思います。センター試験が受験生に求めているのは単なる用語的な知識ではないことがよく分かるでしょう。用語を覚えておくことは当然必要なのですが、さらに深くその思想を理解したり考えたりすることが要求されています。

[27] 正解 1 17%

ひょっとすると、ここまで**α**の正解が2つ続いたので、まさか3つ続くことはないだろうと思った人もいるのでしょうか？ 予想以上に低い正答率です。ちなみに私は～のうち正解をどれにするかをエクセルの乱数で決めています。ですから本当にランダムになっていますから、「そろそろ 番かな？」などと出題者の心理から正解番号を選んでムダなので気をつけましょう。39%が「本質」を29%が「論理」を選びましたが、本質や論理を食い破って、足元を掘り崩して、その外部に出てしまっただけで哲学は成立しません。ヒントは本文の中にある「通常、『善とは何か』『美とは何か』をあらためて定義しようとはしない」の部分です。普通やらないことを取敢てやるということですから、日常的な行動や思考、普通は当たり前になっていることをあらためて考え直すということが哲学なのだということです。

[28] 正解 2 54%

ついつい**α**を選んだ24%の皆さんは「知・徳・福の一致」という用語だけを見てしまったようです。自分が幸せだと感じるのが、すべて善だとソクラテスは考えるのでしょうか？ たとえば、間違った考えに基づいて、犯罪行為が見つからずにすんで幸福感を味わっている人の犯罪行為も善といえるのかということです。ソクラテスの主知主義は、善い生き方とは何かを吟味して真なる知を求め続けることが魂の世話であり、善い生き方なのだということです。なぜ、知を求め続けるかということ、正しい知のみが正しい行為を生むことができるからです。ということで、正解は**β**です。

[29] 正解 2 66%

資料集をきちんと読んでいけば、父は石工、母は産婆というソクラテスの家庭環境や、授業ではあまり触れていませんが、クサンチッペという妻についての知識は持てます。アテネの名門貴族に生まれたのはプラトンでしたね。

[30] 正解 4 43%

なぜか**α**を選んだ人が43%いましたが、ストア派はプラトンよりも後、ヘレニズム時代の思想です。**α**はプラト

ン自身の学派ですから適当ではありません。キュニク（キュニコス）派については授業でもプリントでも触れていませんが、資料集45ページの「樽の中のディオゲネス」が有名です。キュニコスとはギリシア語で【犬のような】という意味ですが、社会的規範を軽視して、無欲・無所有に生きた人々です。正解はピュタゴラス派ですが、プラトンが幾何学を重視した点や「肉体は魂の墓場（牢獄）」というピュタゴラス派の思想を継承している点を押さえておきましょう。

[31] 正解 4 58%

リード文はアリストテレスが『形而上学』のなかでプラトンについて語っているところです。穴埋め部分直後の「感覚的な世界は全体が常に流転状態にあって」からヘラクレイトスの「万物は流転する（パンタ・レイ）」を結びつけられるかどうかを見る問題です。たしかに「感覚的世界についてはいかなる学問的知識もありえない」というところはピンとこないところだと思いますが、これはクラテュロスの見解です。クラテュロスは覚えておく必要はありませんが、プラトンにも同名の対話篇があります。

[32] 正解 3 81%

これはよくできていました。ソクラテスの探究は自然的世界ではなく、道徳（倫理と訳す場合もあります）上のテーマに限定していたわけですから。

[33] 正解 3 83%

このアイデアを選ぶことができた人はきちんとプラトンのアイデア論を理解できていた人です。リード文では「感覚的世界」と「別種の存在」を対比させていますね。これは「現象界」と「イデア界」の対比です。エウダイモニアは幸福、プシュケーは魂、**α**はアイデアを愛し求めるプラトンの愛をあらわしています。

[34] 正解 2 72%

[普遍・一般]は[特殊・個物]の対義語になります。したがって、「普遍的な個物」というと概念矛盾になってしまいます。「善い悪人」とか、「醜い美人」とか、「小さな巨人、里中智」って知らないかな？ 野球漫画ドカベンに出てくるピッチャーです。巨人といえば昔は本当に「ビッグミニ」という名前の自動車があったんですよ。巨人の原監督（当時は選手か？）がコマーシャルをやっていました。「普遍的な個物」に似た例は皆さんも思いつきますか？「うるさいしずかちゃん」はちょっとちがうかな？

[35] 正解 1 62%

この問題はサービス問題のつもりでしたが、何と正答率は62%！ 単純にプラトンの魂の三部分説を覚えていれば解ける問題ですが、38%の皆さんはそれを覚えていなかったということです。勉強していなかったということです。「気質」を選んでしまった人は、パーソナリティの三要素と混同してしまいました。魂の三部分は理性と気概と欲望。以上解説終わり。

[36] 正解 4 82%

これもさらに易しいサービス問題です。18%の誤答者

のことが心配です。プラトンの四元徳をもう一度しっかりまとめてみましょう。下の表は見ないでもかけるようになってはいけません。

人間の魂	四元徳	理想国家
理性	知恵	統治者階級（哲人）
気概（意志）	勇気	防衛者階級（軍人・武人）
欲望（情欲）	節制	生産者階級（庶民）
	正義	

[ 37 ] 正解 3 50%

授業プリント 20 ページに小さい文字で書いておいたせいか、思ったよりも正答率が高くなりました。間違えた人はプリントに「神の国と地上の国」の文字を探してみましょう。プラトンの二世界説、すなわち二元論はこの後の授業で登場するアウグスティヌスというキリスト教教父によってキリスト教の教義に影響を与えます。彼の著作『神の国（神国論）』は神の国と地の国の戦いについても言及していますが、永遠の神の支配と滅びゆく世俗の社会の秩序の対比には、イデア論の影響が強く反映されています。

[ 38 ] 正解 4 27%

これはセンター試験の過去問のなかでも難問の部類に入ります。上の表にあるように人間の魂と理想国家のあり方は対応しているのですが、それぞれの階級はそれぞれの魂同様にうまく機能するときに正義は実現します。資料集 p.41 にあるとおり、魂は「二頭立ての馬車」にたとえられます。御者（理性）が二頭の馬（気概と欲望）を正しく導くことが必要とされているように、のよう段階的に理性が気概を気概が欲望を支配するのではなく、のよう理性が魂の他の部分をリードするべきだとする考え方が正解となります。

[ 39 ] 正解 2 84%

プラトンの洞窟の比喻については、授業中の話もよく聞いてくれていたようですね。この世界はリアルな世界ではなく、いわば影の世界であるという視点は、単に荒唐無稽な話として退けられるものではありません。私たちはこの世界をそのまま見ているように思っていますが、実際は私たちの見ている世界は私たちの意識の中にしかありません。視覚とは何か？とか、意識とは何か？とか、世界とは何か？とか様々なテーマは色あせることなく今も残っています。

[ 40 ] 正解 3 23%

25% 24% 23% 25%ときれいに分かれてしまいました。プラトンの理想とする国家は、民主政治ではなく高い知性を持った統治者階級による哲人政治でした。にある優秀者支配制こそがプラトンの哲人政治ですから、これを否定するは誤り。が誤っているのは富者が支配するという点です。富者ではなく哲学者です。まさしく民主制批判！ プラトンは民主政治を平等と放縦の悪政ととらえています。欲望が無批判に肯定される社会。確かに現代社会はそうなっているのかもしれませんが、となると当然は誤答です。

## 第 5 問

[ 41 ] 正解 3 64%

[ 42 ] 正解 5 74%

[ 43 ] 正解 1 54%

[ 44 ] 正解 4 51%

アリストテレスの形而上学に関する知識を問う問題です。 因という言葉はなじみがないと思いますが、[ 41 ] と [ 42 ] が「つねに対をなす」という表現。「たとえば [ 42 ] としての木材は」という表現。それらから [ 42 ] が 質料で [ 41 ] が 形相であることが導かれます。また、[ 43 ] と [ 44 ] も対になっていますが、これは「[ 42 ] （質料）としての木材は家の [ 44 ] であり」という表現から [ 44 ] が 可能態であることが分かり、[ 43 ] が 現実態であることが分かります。

[ 45 ] 正解 4 37%

これは、プリント 22 ページをきちんと読み込んでいるか、もしその知識がなかったとしても、リード文の中にヒントがありました。メタフィジックス、いわゆる形而上学という言葉は、アリストテレス自身は使っていません。彼はそれを「第一哲学」や「神学」と呼び、後世の人がメタフィジックスという言葉で呼ぶようになったのです。[ A ] 前後の文脈には「神」という言葉が頻繁に出てきます。もちろん、授業の中ではここまで詳しく説明していませんが、リード文を読むことによって、それは神学と呼ぶに相応しい学問であることが分かると思います。

[ 46 ] 正解 3 31%

「両極端を排した [ 中庸 ] 」という選択肢だったらもう少し正答率が高かったでしょうか。 は浄化ですから習性的徳とは関わりません。 思慮は中庸を命じる知性的徳ですから思わず選びたくなるかもしれませんが、ここでは習性的徳のあり方を聞いているわけであり、原因を聞いているわけではありません。 幸福も問題外ですね。

[ 47 ] 正解 3 59%

「その命題が三段論法である」ということと「その命題が正しい推論をしている」ということは別のことです。 は正しい推論ですが、3つのステップで推論を展開していませんので、三段論法ではありません。 は間違った推論ではありますが、3つのステップで行われる三段論法です。ちなみに は帰納法といわれる推論形態です。F . ベーコンの話あたりでまた出てきますよ。

[ 48 ] 正解 1 14%

これは難しかったかな？ のピュシカはピュシス（自然）というギリシア語に由来する（自然学）という学問です。形而上学という言葉はメタピュシカですからこれが適当でないということで正解になります。 はメタピュシカの元々の意味。 はメタという言葉に含まれる派生的な意味。 はアリストテレス自身がそういっています。

[ 49 ] 正解 4 15%

は習性的徳は「知性」にもとづく徳ではないから「習

性」的徳なのです。は無謀と臆病がただしいですね。  
は思慮は知性的徳であって、習性的徳ではありませんので  
間違い。ということで、が正解。前半が全体的正義を後  
半が部分的正義をあらわします。

[ 50 ] 正解 2 25%

理論学に当てはまるのは、自然学、形而上学と 数学です。

倫理学は実践学、弁論術は制作学、そして 論理学は  
全ての学問を学ぶ前に学ぶべきオルガノン( 道具 )でした  
ね。プリントをしっかりと復習しましょう。